

市内活動グループ訪問記

ボヤマス

スピッツェンパフォーマンスを訪問

11月10日、市立けやき会館の体育館に「チャレンジドチア」の練習におじゃまして来ました。「チャレンジドチア」とは、障がいの種類、重症度によっては有無に関わらず誰もが参加できるチアリーディングチームです。

NPO法人スピッツェンパフォーマンスは子どもたち、障がい者及び高齢者などに対して、競技力向上や運動機能向上を目的にスポーツやトレーニングを通して健全な心身の育成を目指しています。また、指導者の育成や派遣も行いスポーツ振興の発展に寄与することを目的として活動しています。

チャレンジドチアには障がいに関して研修を受けた経験豊富なチアとダンスのインストラクターが子ども達の個性に応じて丁寧な指導をしています。

当日は、車イスの親子や体験者の親子を含めて10組の参加でした。まず準備運動からです。マスクをして間を空けて、座って両足を開き足の裏と裏を合わせ上



練習を終え、みんなでにっこり♪

下にパタパタと。Y字バランスでは少し親に支えてもらいみことなY字バランスができました。

子どもたちが練習を行っていた間も子どもたちの様子を見守りながら、保護者に話しかけているスタッフの浦野さんにお話を伺いました。

「やはり大きな障がいの度合いにより、できる事、できない事があるが、その中でもその子ができる事を見つけて伸ばし、必ずその子が輝ける場面を考えた演技構成にしています。無理強いすることなく『やるならいっつ』と聞きながら個々の特性を見きわめながら行っています。今コロナ禍の中でできない事も沢山ありますが、できる事をやっています」

毎年行われるチア&ダンスの全国大会のエキシビジョンにも出場しているそうです。障がい者と健常者が一緒に行うチアのチームとして日本で初めて作られたチームだそうです。

休憩中この組の親子にお話を伺いました。「楽しく通っています」「踊るのが好きだったので楽しいと言っています。またこのごときのお友達に会えるのを楽しみに通っています」と話してくれました。やはりのお母さんもお楽しんでいる様子の子どもたちの姿にマスク越しにやさしく穏やかに見守っている表情が感じられました。

練習が再開され、先生のかげ声に合わせてリズム

カルに動く子どもたち、時にはお父さん、お母さんに手伝ってもらい本当に楽しそうです。また金色のポンポンを持つ練習では、美女と野獣の音楽で更に楽しさが伝わってきます。ポーズが決まった時には私たちが取材側も思わず拍手です。

最後に、この子どもたちの指導を4年以上行っている平田コーチにもお話を伺いました。「初めてレッスンをした時は全然まじまじバラバラなレッスンチームだったのでですけど、だんだんと健常の子が障がいのある子をサポートしてお世話をしてくれるようになり、今日はダウン症の中学生が小さい子にフォーメーション(位置)を教えてくれたり並ばせてくれたりしました。他の子とふれ合うことで刺激になっているように子どもの成長がどんどん見えてきて苦労はないですね。保護者の協力が大きいです」とこやかに話してくれました。

子ども頑張りにコーチ、保護者スタッフの皆さんが愛情をもってサポートする姿がありました。早く新型コロナウイルスが終息して練習の成果を発表できる日がくると思います。その時にはほかほかふれあいフェスタにも、ぜひ出場してくださいね。ありがとうございました。(小山)



*NPO法人 スピッツェンパフォーマンス
代表理事 多田久剛
Email info@spitzen-performance.jp

クイズの答え!

- ①二酸化炭素 ②香川県 ③梵天

